

彩の歳時記

平成二十一年 五月



『五月礼賛』は与謝野晶子が明治四十五(大正元)年五月五日、夫の鉄幹を追ってパリへ向けて出發し、五カ月に及ぶ滞在の中で詠んだ詩。美しい五月のパリの景色がキラキラ光る宝石のような言葉で紡ぎ出されています。シベリア鉄道経由で五月十九日にパリ着。パリを足場にイギリス、ベルギー、オランダ・オーストリア、ドイツへ。

ああ皐月 仏蘭西の野は火の色す 君も雛嬰粟 われも雛嬰粟

は晶子が巴里での二人を詠んだ歌。花言葉は「陽気・慰め・いたわり」

雛嬰粟(ひなげし)は英語で「ポピー」、仏語で「コクリコ」、スペイン語では「アマポーラ」。都内では小岩菖蒲園・昭和記念公園が見所。



五月の異称

皐月「皐」は(神に捧げる)の意。日本書紀に「五月蠅が群がり騒ぐところから五月」。苗を植え付ける時期で早苗月を略して早月。

五月の暦

- 一日 メーデー(MayDay) 世界各地でこの日に行われる春の訪れを祝う祭典。労働者が権利要求と国際連帯活動の日。
- 二日 八十八夜 立春から八十八日目。八十八の字は「米」になることから、農業にとって特別な重要な日。♪夏も近づく八十八夜♪
- 三日 憲法記念日 1947年のこの日、日本国憲法が施行された。

葵祭

『五月礼賛』に詠われている葵祭は京都三大祭(祇園祭・時代祭)の一つ。主な前儀式は、三日・下鴨神社の流鏑馬(やぶさめ)神事に始まり、四日・斎王代御襖(みそぎ)の儀、五日・歩射(ぶしや)神事、十二日の御蔭(みかげ)祭と続き、十五日の葵祭を迎える。

- 四日 みどりの日 元は四月二十九日の昭和天皇誕生日。昭和という時代を偲ぶための「昭和の日」にすべきだという意見も根強い。
- 五日 こどもの日【端午の節句】「子供の日」「子どもの日」と表記されることもあるが「こどもの日」が正式。



立夏(二十四節気)

夏日といわれる気温の高い日もあるが湿度が低くさわやかな季節。夏の始まり。

- 六日 振替休日 祝日法の改正により1973年四月から設けられた休日。
- 十日 母の日(第二日曜日) 1914年にアメリカでウイルソン大統領がこの日(母の日)と制定、日本もこれになった。「母の日」の提唱者アンナ・ジャービスの母が九日に亡くなったことに因る。

小満(二十四節気)

「万物盈満すれば草木枝葉繁る」 曆便覧
秋に蒔いた麦などの穂が付き、少し満足すると言う意味も。

二十九日

白櫻忌、晶子忌

遺稿歌集『白櫻集』に因む。明治・大正・昭和の

歌人・詩人、与謝野晶子【1878~1942】の忌日。処女歌集「みだれ髪」で近代文学史に浪漫主義詩歌の位置を確立、五万首を残す。日露戦争の反戦歌「君死にたまふことなかれ」は有名。



源氏物語の翻訳や評論活動も。夫も歌・詩人の与謝野鉄幹。エネルギッシュな人生を送り、女性解放思想としても巨大な足跡を残す。現・財務大臣・国務大臣の与謝野馨氏は孫。渡辺淳一の小説「君も雛嬰粟 われも雛嬰粟・与謝野鉄幹・晶子夫妻の生涯」は与謝野夫妻を通して新しい夫婦のあり方を描いた作品。

五月 礼賛

五月は(よ)い月、花の月、

芽の月、香かしの月、色の月、

ボブラ、マロニエ、プラタナヌ、

つつじ、芍薬、藤、蘇枋(すはう)

リラ、チュウリップ、嬰粟(けし)の月、

女の服のかがるごと

薄くなる月、恋の月、

巻冠(まきかんむり)に矢を背負ひ、

葵(あひび)をかざす京人(きやうびと)が

馬籠(うまくら)べする祭月(まつりつき)

巴里(パリイ)の街の少女(せうじよ)をどめらが

花の祭に美うつくしい

貴(あてな)女王(ぢよわう)を選ぶ月、

わたしのことを云ふならば

シベリア(シベリヤ)を行き、独逸(ドイツ)行き、

君を慕(こ)うてはるばると

その巴里(パリ)まで着いた月、

菖蒲(あやめ)の太刀(たち)と

襦(じゆ)のぼりどで

去年(こぞ)うまれた四男(よなん)の目の

アウグユストをば祝(いわ)ふ月、

狭(せま)い書斎(しよさい)の窓(まど)こしに

明るい空(そら)と棕櫚(しゆろ)の木(き)が

馬來(マレー)の島(しま)を想(おも)はせる

微風(そよかぜ)の月、青(あお)い月、

フラチナ色の雲(うみ)の月、

蜜蜂(みつばち)の月、蝶(ちょう)の月、

蟻(あま)も蛾(か)となり、金糸雀(かなりや)も

卵(たまご)を抱(いだ)く生(うみ)の月、

何(なに)にやら物(もの)に誘(そ)こられる

官能(くわん能)の月、肉(にく)の月、

ヴウレエ酒(ぶうれえしゆ)の、香料(かうり)の、

踊(おど)をどりの、楽(がく)の、歌(うた)の月、

わたしを中に万物(ばんぶつ)が

強く抱(いだ)きしめ、縫(ぬい)もつれ合(あ)ひ、

呻(うめ)き、くちづけ、汗(あせ)をか

太陽(たいよう)の月、青海(あせうみ)の、

森(もり)の、公園(こうえん)の、噴水(ふんすい)の、

庭(にわ)の、屋前(やまへ)テラスの、離亭(りてい)の月、

やれ来た、五月(ごご)、麦(むぎ)の、

細(こ)い薄(うす)すでの硝杯(びやうはい)こつぶから

レモン水(れもんすい)をば吸(あ)ぶやうな

あまい眩暈(めまひ)を投げに来た。